

望年山行 硫黄岳

(山域) 八ヶ岳連峰

(日時) 2017年12月1日夜発 12月2、3日

(天候) 晴れ

(参加者) CL 田中 SL 鶴田 加藤 神崎 大森 滝本 松本

1日目

21:00 千葉～1:00 八ヶ岳山荘～6:30 出発～6:50 桜平(下)下車
～7:10 唐沢鉱泉夏沢鉱泉分岐～9:40 夏沢鉱泉～11:15 オーレン小屋～
12:15 夏沢峠～14:30 硫黄岳～16:30 赤岳鉱泉

2日目 8:45 赤岳鉱泉～9:00 ジョウゴ沢～10:00 赤岳鉱泉～10:40 中山展望台
～11:30 赤岳鉱泉～13:40 美濃戸山荘～14:00 赤岳山荘～15:10 美濃戸口
～16:15 もみの湯～20:30 千葉

前夜 日付が変わってから高速を降り現地に到着

2台の車は中央道八ヶ岳 S.A で合流、八ヶ岳山荘に深夜到着し仮眠をとる
短時間にも関わらずぐっすり眠る事ができた

1日目 長いアプローチは大変だったが青空と雄大な景色を見る事ができた

早朝タクシーを下車した場所は全く雪がないが、これ以上は入ってくれないのでここから
当初の予定より

2時間半多く歩くことになる



ふかふかの布団で快適¥2000也



重いザックを持つての長い林道
歩きは想像しただけで萎える
が、今日は風も無く好天が期待
できそうで足取りは軽くほぼ
コースタイム通りに進む

2時間近くしてうっすら雪が
道に出てくる

夏沢鉱泉でドリップコーヒーを飲んで温まらせてもらい活力を取り戻した後
雪のかぶった沢を眺めながら1時間弱かけてオーレン小屋を目指す



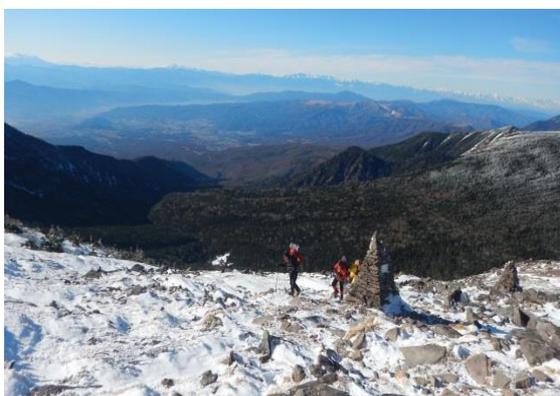
オーレン小屋は営業していないが一部開放してくれて利用できる



ここからは樹林帯で雪も段々と深さを増していくがまだツボ足でOK
夏沢峠でアイゼンをつけるが、この時ちょっとしたアイゼンのストラップのハプニング
があったが田中 CL が機転を利かせて細引きで代替し事なきを得た。ブラボー



夏沢峠からは森林限界を超えて、ここから一気に硫黄岳を目指す
緩やかな斜面だが先が見えているせいか登っても登ってもまだ上がある
天気も穏やかとは言え、それなりの強い風を受ける
酸素不足と重い荷物と寒さで、それだけ考えると辛いのだが
爆裂火口や遠くに見える油絵のような北アルプス、壮大で美しい景色に見とれながら夢中
で登っているうちに頂上に着いた





そして一番嬉しかったのは頂上で風の強い中、
広木さんP、菊池さん達が我々を待っていてくれた！とても感激した



記念写真を撮ってもらい皆が集まっている赤岳鉱泉へ着くとすでに他のパーティーは
テントを立てて寛いでいる様子。自分で手早くテントを設置しなければならないが
疲労と不慣れで、もたついていると本隊の狩野さんが現れ手伝ってくれた。
マイテントで各自腹ごしらえをした後、宴会テントへお邪魔した。大きなテントにオー
ブルをこんな場所まで運び上げていただき、本隊の方々にたいへんお世話になりました



2日目 下山路が核心だった！？

ジョウゴ沢にアイスクライミングの見学後、神崎さんが田中さん、神崎さんは赤岳鉱泉に
留まり、それ以外のメンバーでハイキングに出る 樹林帯をまた少し登り返すが、空身な
ので昨日と違い足取りも軽く気持ちが良い

途中、中山展望台へ立ち寄りあまりに気持ちが良い長居してしまった為
目的地の行者小屋はあきらめ赤岳鉱泉へ戻り、美濃戸口への下山を開始
ところがそこから緩やかな下りと甘くみていたらとんでも無く、
随所が凍っていてなかなか緊張が解けない険しい道のりであった



背中の疲れもピークをとうに過ぎている
が赤岳山荘で田中さんにつられてホット
ミルクを注文、栄養補給してもうひと頑

張りし、ようやく昨日仮眠した八ヶ岳山荘にゴール

もみの湯で温まり帰路につくが、信じられないくらい中央高速が空いて一度も渋滞な
く千葉についた

初めての雪上テント、重い荷物を担いでの雪山ハイク、一度で沢山の貴重な経験ができて、
また沢山の方々とご一緒できまさに来年に望む山行となりました。

ありがとうございました

松本

神崎さんより・・・望年山行の感想です

山行6回目、テント泊初めて、雪山アイゼン初めての僕には硫黄岳は辛かった。

体力、気力の限界を感じ何度断念しようと思ったことか。それでも断念しなかったのは
みんながいるから？引き返すことができないから？止まればみんなに迷惑がかかるから？
内心登頂なんてどうでもよかった。足を一步一步前に出すだけ。

ただ、山頂で田中さんに言われた「おめでとう」と握手してくれたことが
今でも心に残っている。とても嬉しかった。

菊池さんにいただいた山頂で撮った写真に写っている自分はとても楽しそうだ。

また、雪山をやるかどうかわからないけども（たぶんやるかな（笑））今回の山行は僕に
とって非常に意味深い物になったことは確かだ

神崎敬